

6人の
議員が登壇

一般質問 町の考えを問う

一般質問とは、定例会において、議員が町の施策の状況や方針などについて、報告や説明を求めることです。充実した能率的な議会運営を行うため、原則としてあらかじめ通告しておくことになっており、議員一人当たりの持ち時間は60分です。

3月定例会では6人の議員が登壇しました。

ここでは、質問と答弁を要約した内容（11ページから15ページ）を登壇順（質問順）にお知らせします。また、それぞれの議員のQRコードより一般質問の録画放送がご覧いただけます。

質問議員	質問事項	ページ
みずたに 水谷 久美子	◎子どもワクチン副反应对応を ○補聴器購入助成制度の見解は ◎インボイス制度の弾力的運用を	11
いわなが 岩永 義仁	◎新食肉施設用地の費用負担は ○休眠廃止施設の今後は ◎改良住宅の売却状況は	12
しみず 清水 由美子	◎自主財源確保に向け取り組みは	13
にしわき 西脇 康	◎地域自治町民会議の今後は	13
こでら 小寺 光信	◎養老町が目指す農業基盤は ◎地域自治町民会議は ○養老公園への接続道路は	14
よしだ 吉田 太郎	◎企業誘致推進は ◎町長の政治姿勢は	15

【注】○印の内容は編集上掲載しておりません。



◆水谷久美子 議員

子どもワクチン副反应对応を

町長 接種者に丁寧な説明をする

3月14日から年齢を段階的に区切り、子どもワクチン接種が始まる。副反応や後遺症などを心配する声も寄せられている。

問 これまでのワクチン接種で予防接種健康被害救済制度に基づく町の申請書交付の有無は。

答 交付事例はない。

問 保護者から副反応や後遺症に対し、医師会と町のフォロー提供の確立を求める声があるが。

答 副反応は、町保健センターが受け皿。専門的相談は、県のワクチンコールセンターへ繋いでいる。後遺症は、岐阜大学医学部付属病院で後遺症外来が、令和3年11月に開設されている。



厚生労働書パンフレットより

問 コロナワクチン接種について国は、特例承認シメーカーの副反応責任を問わないとした。また、子どものワクチン接種を「努力義務」に当てはめないとした。これらは、保護者の「知る権利」であり、添付資料に明記すべきではないか。

答 効果と副反応を正しく理解し、家族で接種有無を決めて頂きたい。

問 教育委員会として、各学校現場への配慮は。

答 接種しない子どもへのハラスメントなどに繋がらないよう十分な配慮を求めている。

インボイス制度の弾力的運用を

町長 税務署と連携し周知啓発に努力

令和5年10月1日からインボイス制度が導入される。中小零細業者やシルバー人材センター会員までも消費税課税業者になる。

問 町や町に準ずる団体が発注する請負業者の中で年商1千万円以下の業種や業者数は。

答 把握していない。契約時にインボイス登録業者の確認をする予定。

問 町は全ての業者にインボイス制度への加入を求めるのか。

答 事業内容によってはインボイスへの登録を必要としない業者もあると思う。税務署は説明会や相談会を実施し、周知を行っているとしている。

問 高齢者が就労を通じ、自己の労働能力を活かし社会参加している町シルバー人材センター会員も制度対象になるが。

答 本年2月末の会員数216名。事務局は、会員、発注者双方に負担の

少ない方法を模索中と聞いている。

問 この制度の導入により町の活性化や高齢者の生きがいが増えたと懸念する。

答 町村会への協議や零細業者の活性化については、貢献できる施策を検討したい。



シルバー人材センター会員による回収業務

他に「補聴器購入助成制度の見解について」の質問もしました。